

S-face

SFC makes the future through researches

外国語習得に新機軸を拓く 学習環境デザインの構築

藁谷 郁美

VOL.

011

/100

2016.Jun 発行

和の色：緑色



教材と実生活を結びつけ 外国語習得をサポート

外国語を身につけようとする場合、教室での学びだけではなかなか上達しないものです。
学んだことを実際の生活の場面で使用して初めて、運用できるスキルにすることができます。

しかし、学んだ内容と実践の場がうまくリンクすることはまれです。

「もっと学びと実践に近いものに」との思いから、藁谷郁美教授は新しい外国語学習環境の構築を進めています。

背景にある理念は、多様な学習者を前提とする学習環境デザインの重視。

その実現のために、学習スタイルを自分でカスタマイズできる教材や学習支援システムを開発しています。

教室内の学びを 日常空間で体験

外国語の学習は、授業で学ぶ「フォーマルラーニング」と、教室の外で学ぶ「インフォーマルラーニング」として捉えることができます。言語は単語やセンテンスを知識として大量にインプットしても、実践の場でアウトプットができなければ、それは単なる知識であって、「使える」運用能力とはなりません。フォーマルラーニングで得た基礎知識を、インフォーマルラーニングの場です

ぐに発揮できるように連動させる学習環境を構築できれば、言語の習得が飛躍的に進むかもしれません。その実現に向けて、データベースシステム研究者やユビキタス・コンピューティング研究者と共同で「体験連動型ユビキタス・ドイツ語学習環境の構築」を進めています。

端的に言うと、スマートフォンなどに搭載されているGPS機能を利用して学習者の位置情報をセンシングし、その場所で起こりうる接触場面を想定した会話や語彙などの教材データをあらかじめマッピングして、

学習者がその場に遭遇した際に利用できる学習環境支援システムです。教材データはテキストや動画、画像、音声などさまざまなかたちで提供され、学習者はその時の自分に最適なものを選択して利用できるように設定されています。異分野横断的な研究は慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(SFC)だからこそできる取り組みであり、この取り組みによって、ダイナミックな学習環境デザインが構築されつつあります。

SNSを使って ライティング能力を高める

もうひとつ進めているのが「ライティング運用能力の支援システムの構築」です。外国語を学ぶ時、ライティング能力は教室内の個別指導が難しく、インフォーマルラーニングの支援でも習得が難しいと考えられています。しかし最近はSNS上でのコミュニケーションが活発化し、発信の場として多用されています。SNS上でのライティングは、従来の「作文」の作成というよりは、むしろ話し言葉に近い文体ですが、大学生を中心とする学習者にとって、外国語に限らずアウトプットの機会がSNS上の発信であるケースは、非常に多いと考えています。そこで学習者にとって日常生活の環境のひとつであるSNSを学習支援システムとして活用できるのではないかとという仮説のもとに研究を行っています。

ドイツ語を履修する学生に協力を仰ぎ、SNS上でポストイングをする際の投稿までのプロセスを調べながら、どのように学習支援をおこなうことができるかを検討しています。学習者が言葉を検索して書く前に、辞書やWeb情報を利用することは以前

から見られる傾向ですが、最近はこちらにWeb上のコミュニティの利用が加わってきたことで、学習者のライティングプロセスに変化が見られます。自分がメンバーとなっている様々なコミュニティで「この表現、どう思う?」等の質問を直接ネイティブ話者に投げかけながら、ネット上のコミュニケーションのなかで、自分の意図する表現や語彙を探していくのです。こうした行動に対して、より効率的な外国語学習支援が構築できないかと考えています。特に、ポストイングは出来事(イベント)を周囲に発信する際にみられる行動であることを利用して、GPS機能を通じ居場所から出来事・状況を推測し、表現や語彙がピックアップされるようなシステムの構築など、さまざまな学習支援の可能性を探索しています。

宗教言語の視点から 文学作品を研究する

私は、個人研究として宗教言語分析の研究にも取り組んでいます。特に日本の文学作品が他の言語に翻訳される際、内的描写に宗教言語が使用される事例が多く、その際に生じる論理の転換、世界観および視点

の相違を分析しています。

宗教言語の視点から文学作品の分析・研究を行うことによって、宗教的要素——キリスト教の要素を担うシンボル、メタファー(※1)、アレゴリー(※2)等——が、表現手段としてどのような機能を発揮するのか明らかになります。日本ではキリスト教的な思想が社会のバックグラウンドにないため、発信されたコンテンツに内包される宗教的な要素を認識したときに受容される内容が違います。これは文学作品にとどまらず、日常の「言語」が介在したコミュニケーションにも必ず起こりうる現象です。

イコノグラフィー(※3)に見る要素やノンバーバル(非言語)コミュニケーションの要素にも、共通して見えるものです。表現手段の機能を知り、その視点からあらためて世界を見ることで、別の射程を自分の視野に入れることができるのです。これは大学の講義でも学生に伝えなければならない重要な視点だと考えています。

※1 比喩、暗喩

※2 寓話(ある抽象的な概念を具体的な形象によって語る技法のこと)

※3 図像学、図像の持つ意見を判定する学問



Experience-Oriented Language Learning Environment

体験連動型外国語学習環境の構築



スマートフォンのGPS機能など、携帯端末の利点を活かした外国語学習者のためのユビキタス学習環境を構築。教室での学習と教室外の実践的な生活の「場」との連動を試みている。



SNS

ソーシャル・ネットワーキング・サービスの活用



学習者にとって親和性の高いSNSを学習支援システムとして活用できるのではないかとという仮説のもと、研究を実施。SNS上で投稿するまでのプロセスを調べ、どのように学習支援を行えるかを検討している。

d-mode

d-mode



SFCでドイツ語を履修している学生のための自律学習教材群。SFCのドイツ語カリキュラムおよび教科書に準拠している。



Profile

藁谷 郁美

慶應義塾大学総合政策学部教授。ドイツ州立ボン大学で文学博士号取得。専門は文学作品のみならず様々なメディアコンテンツと表現手段としての言語の関連性を実証的に分析・考察する作業を学生と共に実施。

詳しくはWebサイトへ

詳細インタビューや動画も
ご覧いただけます

S-face

検索



慶應義塾大学SFC研究所

慶應義塾大学 湘南藤沢事務室 学術研究支援担当

〒252-0882 神奈川県藤沢市遠藤5322

Tel: 0466-49-3436 (ダイヤルイン)

E-mail: info-kri@sfc.keio.ac.jp